

広報ほんべつ

本別

いいひと いいまち いきいきほんべつ

HONBETSU

2017

April
No.1062

4月

表紙

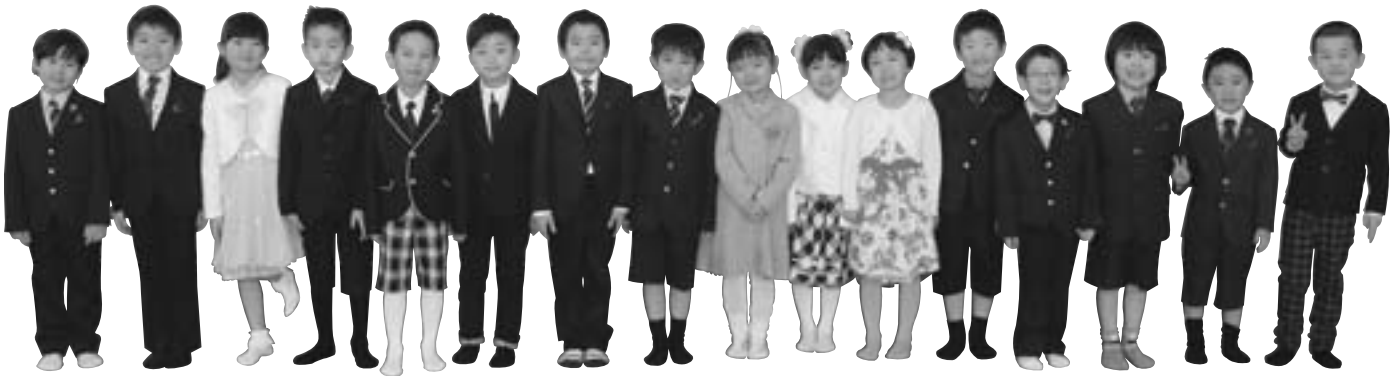
閉所・閉園とともに修了する子供たち
4月から新1年生です



南保育所



本別カトリック幼稚園



中央保育所

Pick up

- ✿ 町政・教育行政執行方針、平成29年度当初予算
- ✿ 特集 本別町のお金の使いみち
- ✿ ありがとう さようなら 保育所・幼稚園
- ✿ 町教育功績者、少年少女文化・スポーツ奨励賞授賞式

安心と活力と、

夢あふれるまちづくり

3月7日の町議会第1回定例会で、高橋正夫町長が町政執行方針を、中野博文教育長が教育行政執行方針を示しました。平成29年度のまちづくりの方向性について、その概要をお知らせします。



町政執行方針を述べる高橋正夫町長

平成29年町議会第1回定例会の開会にあたり、新年度の町政執行に臨む基本的な考え方や施策の大綱について申し上げます。私は、就任以来、「まちづくりはひとづくり」「町民参加による協働のまちづくり」を基本理念に、「元気で明るく温かく、そして豊かなまち、ほんべつを目指し、創意と活力に満ちたまちづくりが推進できましたことに対し、改めて敬意を表し、深く感謝を申し上げる次第であります。

町政に臨む基本姿勢

現下の我が国の経済は、アベノミクスの取り組みの下、雇用・

所得環境が改善し、緩やかな回復基調が続いているとされておりますが、個人消費および民間設備投資等の民需に力強さを欠いた状況となっており、今後の地方財政を取り巻く環境は、厳しい状況が続くものと思われま

国の予算編成方針においても、昨年度示された「経済・財政再生計画」の枠組みの下、手を緩めることなく本格的な歳出改革に取り組む、施策の優先順位を洗い直し、無駄を徹底して排除しつつ、予算の身を大胆に重点化し、地方においても国の取

見直しを進めるとしており、地域の産業や国民生活への影響が心配されるところであります。

発揮、発信できるよう、併せて初心を忘れることなく、職員一丸となって「スピード感、説明責任、法令遵守（コンプライアンス）」をしっかりと心に刻み、

町民生活に密着した事業の確保と町民が夢と希望の持てる施策の展開を図ることとしております。

① 主要な施策推進の基本的な考え方

① 生涯を通じて学び、夢と未来を育むまちづくり

町民の皆さんが、安心と活力と夢あふれる生活を創造していくために、行政や各関係機関・団体などの協働による町づくりを推進するとともに、激しく変化する社会情勢の中にあっても、子供たちが将来の夢や希望をしっかりと描き、未来に向かって大きな目標をもって生きていく心を育む環境づくりが求められていくことから、家庭・学校・地域が一体となり、大人と子どもが一緒に学ぶ日々を「ほんべつ学びの日宣言」の理念のもと、関係機関・団体と連携を担いながら、四つの風事業の推

進と教育環境の向上に努めてまいります。

② 地域資源を生かした豊かなまちづくり

本町の基幹産業である農業は、昨年、強風、霜などの異常気象、天候不順による日照不足と長雨、更に台風の上陸で、農業基盤、農業生産に甚大な被害を受けました。その影響は、畑作における作付け計画や飼料作物の質・量の低下による生乳の減産、家畜疾病の増加など、新年度の営農と農業生産にも及んできています。

農業の基本であります土づくりを中心に安全安心な農産物の生産および基盤づくりと新規高収益作物等の調査研究および普及を図るとともに、国の施策や事業を積極的に活用し、営農支援組織、複数戸法人に対する支援を農業者、農業関係機関と連携を図り、本別町農業振興基金の活用も含めた取り組みを図ってまいります。

次に、担い手の育成は、農家後継の育成と確保対策に向けた支援、新規就農者受け入れ体制の整備と就業支援内容拡充の施策を進めてまいります。

次に、畜産の振興は、今後4年間の計画で実施します「畜産担い手育成総合整備事業」によ

り草地、施設等の生産基盤の整備・拡充を進めます。

農地の基盤整備は、基盤整備事業を推進するとともに、新年度から管理受託する勇足排水機場の維持管理に努めてまいります。

次に、林業振興は、計画的な植栽を図りながら、造林未済地対策に取り組みとともに、民有林の造林経費の軽減を図り、本別町森林整備計画に基づく健全な森づくりおよび循環型林業の構築を図ってまいります。

次に、商工業は、これまで以上に引き続き、地域資源や地域の特性を生かし、付加価値を高める取り組みとそれを担う人材育成に努めてまいります。

また、「本別町企業誘致条例」および「起業家支援要綱」による新規開業や新分野での事業活動、工場等の新設・増設に対し、積極的な支援を行い、雇用の創出・安定化を図り、商工業の振興に努めてまいります。

ともし、「二億総活躍社会」の着実な実現に向けて本格的に取り組み姿勢を示しております。本町といたしましても人口減少の克服、地方創生に資する喫緊の課題に対して国の取り組みと充分に連携し、自らの地域の将来は自ら決めるという理念のもと、全力でこの課題に取り組みできないかなければならないと考えているところでもあります。

以上のこと踏まえ、平成29年度の町政執行にあたっては、第6次本別町総合計画を基調に、予算の重点化、効率化を図る中で、本別に暮らす誰もが人生を楽しみ、自信と誇りをもって、笑顔で「住んで良かった、住んでみたい」と言ってもらえる「まち」本別町の個性と元気が

③ ともに支え合い、いつまでも安心して暮らせるまちを願う

さらには、活力ある地域づくりを推進していくため、関係機関、近隣自治体等との連携を図りながら移住、観光など地域情報の提供をはじめ、各プロモーション活動とともに、メディアを最大限活用し、町の情報発信に努め、圏域外から、町の交流人口の誘引、移住・交流の促進に取り組んでまいります。

とともに支え合い、いつまでも安心して暮らせるまちを願う町民の総意により宣言していただいた「福祉でまちづくり」を合言葉に、地域住民、福祉団体、事業者、行政がそれぞれの役割を担い、重層的な福祉サービスを提供し、重層的な福祉サービスの充実を図ってまいります。

空き家等対策は、本年度「空き家住宅等除却支援事業補助金」を創設し、引き続き、空き家等の適正管理および有効活用、特定空き家等に関する施策を総合的かつ計画的に取り組んでまいります。

次に、子育て支援は、「本別町子ども・子育て支援事業計画」により、子ども最善の利益を実現するための各種施策を総合的・効果的に推進してまいります。



基幹産業である農業は、営農・生産支援の取り組みの推進を図ります



幼保連携型認定こども園の質の高い教育・保育提供に向けて今後も支援します

本年、開園します幼保連携型認定こども園ほんべつは、「未来に羽ばたく子どもたちの生きがいを育み、子ども一人ひとりがかけがえのない存在として輝く、こども園」を基本理念とし、発達段階に応じた質の高い教育・保育を提供していくこととなります。

また、認定こども園、へき地保育所の利用者負担の軽減については、第3子以降児童の無料化、ひとり親世帯への保育料の軽減、さらに本年度から階層区分の細分化、国の基準額をベースとし、最大5割の軽減など、子育てしやすいまちづくりを推進してまいります。

また、児童発達支援センター機能を旧中央保育所跡へ移動し、本年10月から児童福祉法に基づく新たな事業であります「児童発達支援事業」・放課後デイサービス事業「保育所等訪問事業」を実施し、支援が必要となる子どもの地域社会への参加と包容の推進を目指してまいります。高齢者福祉および介護保険事業は、高齢者福祉施策の充実を図るとともに、介護保険事業の安定した運営に努めるため、関係機関や町民の皆さまと協力して推進してまいります。介護人材の確保は、本町にとって喫緊の課題であることから、

介護サービス事業等々の現状や意向を踏まえながら、引き続き「総合的介護人材確保対策」の充実にも努めてまいります。地域包括支援業務では、医療・介護サービスや生活支援サービス、地域の見守り等切れ目のない支援体制の構築に努めてまいります。

権利擁護事業は、社会福祉協議会と連携しながら、法人後見業務の取り組みや手の育成、「あんしんサポートセンター」の運営に対する支援に努めてまいります。次に、障がい者福祉は、各種障がい福祉サービスの相談支援やマネジメント体制の充実に努めるとともに、障がいを理由とする差別解消の推進、農福商連携事業の推進に取り組んでまいります。

健康管理業務は、乳幼児期から高齢期まで、健やかに安心した生活が送れるよう各種検診事業の普及啓発に努め、特に生活習慣病の予防など健康づくりに必要な健康相談や保健指導を推進してまいります。母子保健は、妊婦一般健康診査の助成を継続し、妊娠期や乳幼児健診、産後の相談など母親への支援事業の充実にも努めてまいります。また、不妊治療費助成、妊産婦支援事業を継続して

取り組むとともに、新たに不育症治療費助成事業を実施してまいります。成人保健は、特定検診の受診勧奨に努め、「データヘルズ計画」と「特定検診実施計画」との整合性を図りながら、効果的な予防活動に取り組んでまいります。

心の健康づくり事業は、月1回心理カウンセラーによる「心のほつと相談」を継続し、町民の健康管理に努めてまいります。老人ホームの運営は、利用者一人ひとりの生活リズムを大切にしながら、利用者の持つていける力を最大限発揮していただき、可能な限り自立した日常生活を営むことができるよう支援してまいります。老人ホームの改築は、平成27年6月に策定いたしました「基本構想」に基づき、引き続き町民の皆さまや関係団体等からいただいたご意見・要望等を踏まえ、「高齢者福祉ゾーン整備基本指針及び第1期整備計画」の策定に向け検討を進めてまいります。

次に、国民健康保険特別会計は、新年度も税率改正は行わず、基金の繰り入れなどで対応してまいります。また、平成30年度から運営主体が市町村から北海道に単位化

できるまちづくりを進めます。併せて、行政の持つ情報を積極的に公開し、町政の「透明性・公平性」に努めてまいります。次に、「行財政改革は、第5次行財政改革大綱と推進計画に基づき、人口減少対策と行財政運営のあり方、展望を見据え、効率的な行政執行を推進してまいります。

本町の公共施設等は、老朽化対策が今後大きな課題となり、厳しい財政状況が続く中、また人口減少等により公共施設等の利用需要が変化していくことが予想されるため、「本別町公共施設等総合管理計画」に基づき、町民と行政が施設に関する課題を共有し、長期的な視点に立った公共施設等の管理を図ってまいります。地方創生は、3年目を迎え、「本別町まち・ひと・しごと創生推進本部」を中心に、町民の皆さまや関係団体の意見を聞きながら、本町における人口ビジョンや地域版総合戦略の進捗状況の確認・評価を進め適切な執行に努めてまいります。

次に、広域行政の推進は、十勝の市町村と連携し、効率的で質の高い行政サービスの提供を図るため、第2期定住自立圏構想の取り組みを積極的に推進し、近隣市町村との多様な連携によ



空き家等対策は本別町居住支援協議会を主体とした居住福祉の推進に努めます

より防災意識の啓発を図ってまいります。さらには、交通事故のない、犯罪のない明るく住みよいまちを目指し、町民一人ひとりの防犯・交通安全意識の啓発に努めてまいります。

④ 快適なまちづくり

本年度の町道整備は、新規事業2路線、継続事業で5路線の道路改良・舗装工事および橋梁長寿命化事業を実施してまいります。

公共交通対策は、交通手段を持たない町民の足を確保するため、ふるさと銀河線代替バス、生活維持路線バス「浦幌・本別線」、太陽の丘循環バスや町有バスなどの公共交通機関の安定的な運行に努めてまいります。住宅環境は、現在、進めています太陽光発電設置、高齢者住宅改修支援、住宅の改修や新築住宅に対する助成制度のほか、著しく管理不良な空き家住宅に対する助成制度の導入を図ってまいります。

次に、水道は、施設の整備や維持管理を計画的に進め、安全で良質な水を安定的に供給できるように努力してまいります。下水道は、施設の整備と維持管理に努め、水洗化の促進を図

⑤ 町民力、地域力、行政力が発揮できるまちづくり

地域コミュニティ意識が多様化する社会に対応するため、引き続き協働の視点で、町民の皆さまや企業、団体、学校などと連携し、これまで培ってきた町民力、地域力、行政力が発揮

できるまちづくりを進めます。併せて、行政の持つ情報を積極的に公開し、町政の「透明性・公平性」に努めてまいります。次に、「行財政改革は、第5次行財政改革大綱と推進計画に基づき、人口減少対策と行財政運営のあり方、展望を見据え、効率的な行政執行を推進してまいります。

教育行政 執行方針



教育行政執行方針を述べる中野博文教育長

教育行政執行の 基本的な 考え方

近年、急速に進行する少子高齢化による社会活力の低下や地方人口の減少、グローバル化の進展、情報通信技術の発展など、社会情勢が激しく変化する中、教育を取り巻く情勢も、コミュニティ・スクールの導入やICT活用による学びの環境革新など、日々変化し続けています。このように変化が激しい社会の中で子供たちが生きていくためには、主体的に人生を切り開いていくことができる「生きる



コミュニティ・スクール導入に向けて取り組みや、気軽に参加できる英語学習の場を設定します

力」を身に付ける必要があることから、基礎的・基本的な知識と技能、それらを活用して課題を解決するための思考力や判断力、表現力などを総合的に育む教育行政を推進していくことが重要です。また、市民が潤いのある生活を送りつつ持続可能な地域づくりを進めるためには、生涯を通じての学びの場の設定や地域の人材育成、経験や知識を地域に還元できる環境づくりを推進することが重要です。

本別町教育委員会といたしましては、教育を取り巻く社会情勢に対応しつつ、学校教育と社会教育のさらなる推進と教育環境整備の充実に向け、関係機関・団体等と連携を図りながら町民の皆さまの信頼に応えるよう教育行政を推進してまいります。

また、「地域の子どもは地域で育てる」を旗頭に、コミュニティ・スクール導入に向けた全町的な取り組みと、本町ならではの取り組みである「ほんべつ学びの日」のさらなる普及と推進事業の充実、文化・スポーツを通して、新たな取り組みとして、英語を本町の学びの主軸のひとつとし、本年度から児童生徒を含めて全町民を対象とした英会話学習を進めてまいります。

主要施策の推進

学校教育の推進については、昨年度に引き続き、地域全体で子供たちの学びを育むために、保護者や地域住民が学校運営に参画する「コミュニティ・スクール」導入に向けた取り組みを進めてまいります。本年度は、男足地区のほか、新たに本別・仙美里地区においても文部科学省から導入促進事業の指定を受け、全町的な取り組みとして事業を進めてまいります。また、保育所・認定こども園と小学校、小学校と中学校、中学校と高校など、幼児教育から高校教育までを連続的に繋ぐ異校種間連携事業を推進するとともに、学校評価結果等を活用して信頼される魅力ある学校づくりに努めてまいります。

義務教育の推進につきましては、児童生徒一人ひとりが「生きる力」を身に付けることができるよう、全国学力・学習状況調査および全国体力調査等の分析結果に基づいて検証改善サイクルを確立するとともに、町派遣教員を学校に配置し、ティール・ティーチング※によるきめ細かな指導の充実に向けてまいります。また、新たな課題を解決するための力となる思考力・



食育の推進については、栄養教諭が各学校に出向いて食に関する指導を行います

判断力・表現力を育成するため、主体的・対話的な深い学びを推進してまいります。

英語に慣れ親しむ活動の推進につきましては、引き続き小・中学校に英語指導助手を配置し、実践的コミュニケーション能力の育成に努めます。また、次期の学習指導要領の改訂で小学校の英語が教科として本格導入されることや、オーストラリア・ミッチェルと国際姉妹都市を提携して国際理解教育の充実を図ってきていることから、今年度から英語を本別の学びの主軸のひとつとし、誰もが気軽に参加できる英語学習の場を設定します。初年度の本年度は、小学校放課後英語学習や英会話クラスマス

老朽化している勇足小学校の校舎および体育館の大規模改修を行います



会、公民館英会話講座等を開催してまいります。

特別支援学級につきましては、小・中学校に特別支援教育支援員を配置し、一人ひとりの子供たちに応じた個別支援の充実に努めるほか、個別の支援・指導計画に基づいて幼児期から就学、そして就職に至るまでの持続的な支援を行ってまいります。

いじめや不登校の根絶に向けた取り組みにつきましては、引き続き中学校にスクールカウンセラーを配置するほか、アンケート調査や定期的に学校指導訪問を実施するなど、未然防止・早期対応に努めてまいります。教育環境の整備につきましては、老朽化している勇足小学校の校舎および体育館を大規模改修するほか、中学校の教育用パソコン等54台および周辺機器一式を更新するなど、教育の基盤となる環境整備に努めてまいります。

本別高校への支援につきましては、少子化により今後中学校卒業生が減少の一途を辿ることから、学年2年間の確保は大変厳しい状況にあります。文武両道の魅力ある本別高校のPRに努め、本別高校の教育を考える会を通して新たな支援策を講じるなど、全町挙げての支援活動を展開してまいります。

食育の推進につきましては、食の安全・安心を確保しながら、地産地消を基本とした地場産品を積極的に使用し、美味しく栄養バランスのとれた学校給食を提供するとともに、栄養教諭が各学校に出向いて食に関する指導を行ってまいります。また、増加傾向にある食物アレルギーにつきましても、その症状を的確に把握し、除去食や代替食により対応してまいります。

社会教育の推進につきましては、本年度からスタートする「第8次社会教育中期計画」に基づき、全ての町民の皆さんが心豊かに生きがいのある充実した生活を営むための施策を推進してまいります。

ほんべつ学びの日の取り組みにつきましては、「学びの日フェスティバル」を通して学びの心を高めるとともに、家庭・学校・地域・行政が連携して四つの風「光風・祈風・夢風・実風」事業を展開してまいります。

生涯学習とふるさと理解教育の推進につきましては、本別の魅力を再発見する「ほんべつ学」、高齢者を対象とした「義経教室」、幼少期の子育てを支援する「なかよし事業」、ジュニアリーダーを育成する「本別・南三陸ふるさと交流研修会」等の各種事業を実施してまいります。



本別高校に対し全町挙げて支援活動を展開します

公民館活動につきましては、文化祭をはじめ吹奏楽合同演奏会、音楽祭、舞踊と民謡の祭典等を開催するほか、英会話講座や子ども体験教室など、公民館を拠点とした各種講座を開講してまいります。

図書館につきましては、ファミリー図書事業を継続するとともに、「本のまち夢づくり講演会」や出前授業を開催してまいります。

歴史民俗資料館につきましては、軍馬をテーマにした「7月15日日本別空襲を伝える」をはじめ、「ふるさと展・アイヌ文化展」等の企画展を開催するなど、

※ティーム・ティーチングとは、複数の教員が役割を分担し、協力し合いながら指導計画を立て、指導する方式のことです。

授業においては、チーフとなる教員が授業をリードし、サブとなる教員がチーフの指導を補助するなど役割を担います。

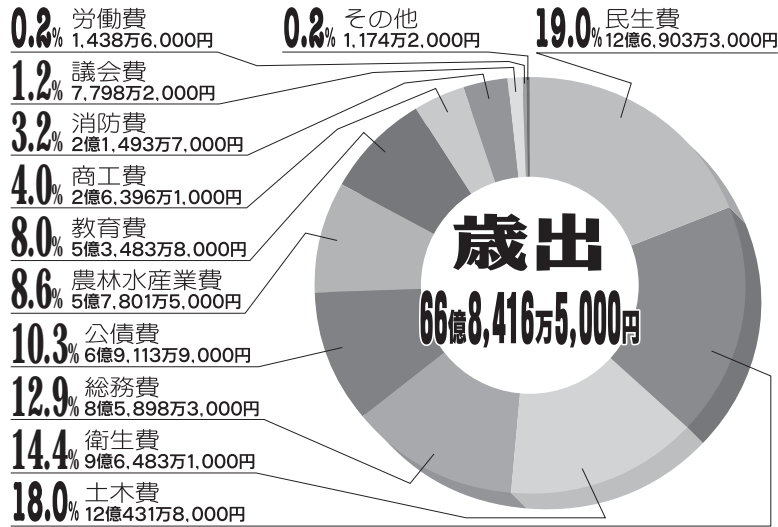
平成29年度本別町の予算

総額 118億9,373万7,000円

一般会計 66億8,416万5,000円

特別会計 34億5,596万3,000円

企業会計 17億5,360万9,000円



計上していますが、前年度当初予算と比較し、10・9%の減となりました。また雇用対策として季節労働者雇用対策やワーク

シェアリング枠(高校生2人)を確保し、防災対策として地域防災研修会にかかる予算を計上しています。

予算編成

平成29年度の予算規模は、一般会計および特別・企業会計を合わせて予算総額118億9,373万7千円となり、前年度と比較すると0・3%の増となっています。予算編成にあたっては、財政の健全化に配慮するとともに、総合計画に掲げる本町の主要懸案を進めるために必要な施策を盛り込んだ予算としました。

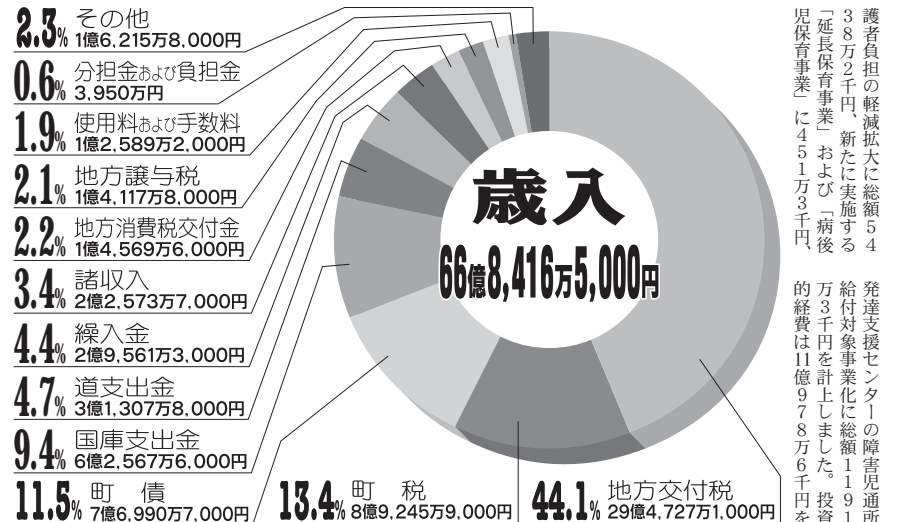
一般会計予算の概要

一般会計予算の総額は、66億8,416万5千円です。前年度当初予算67億9,511万1千円と比較し、1・3%の減となっています。主な内容としては、町民税は個人所得割が1・8%減の3億5,488千円、法人税割が4・8%減の3億7,555千円、固定資産税は土地が3・7%減の6億2,861千円、家屋が2・4%増の1億8,067千円、償却資産が3・0%減の1億7,250万1千円、軽自動車税は13・4%増の1億6,000万1千円となっています。なお、町税のうち入湯税は、観光施設や消防施設、環境衛生施設などの整備や観光振興などに充

てることを目的とした地方税で、256万5千円を見込んでいます。地方交付税は、総額で歳入の44・1%を占めています。普通交付税については、公債費算入額の増加などから、前年度当初と比較し1・0%増の26億4,833万5千円を見込み、特別交付税を含めた地方交付税総額は、29億4,727万1千円を計上しています。繰入金金は、財政調整基金をはじめとした基金繰入金金を2億9,560万1千円とし、前年度と比較して20・6%の増としました。地方債は、7億6,990万7千円を計上し、前年度比5・0%の増となりました。主な要因としては、幼保連携型認定こども園施設整備補助事業が8,320万円の減、向陽町団地公営住宅改善事業が3,930万円の減となつたものの、道路整備事業が9,000万円の増、栄町団地公営住宅建替事業が1,190万円の増となつたほか、新たに国営利別川左岸土地改良事業に1億5,700万円を計上したことなどによるものです。歳出については、引き続き少ない経費で最大の効果を生み出せるよう努めています。安心して子どもを産み育てる環境の充実を図るため、不育症治療費助成事業に30万円、妊産婦支援事業に168万6千円を、子育て世帯には保育料見直しによる保

各会計別当初予算額

会計区分	本年度 A	前年度 B	差引(A-B) C	C/B×100
一般会計	66億8,416万5,000円	67億6,951万円	△8,534万5,000円	△1.3%
特別会計	34億5,596万3,000円	34億5,596万3,000円	0円	0.0%
企業会計	17億5,360万9,000円	17億5,360万9,000円	0円	0.0%
小計(1)	101億4,012万8,000円	101億5,500万8,000円	△1,488万円	△0.1%
水道事業	1億6,551万6,000円	1億6,252万9,000円	298万7,000円	1.8%
病院事業	12億2,610万4,000円	12億1,107万9,000円	1,502万5,000円	1.2%
合計(1)+(2)+(3)+(4)+(5)	118億9,373万7,000円	118億6,024万6,000円	3,349万1,000円	0.3%



護者負担の軽減拡大に総額543万8千2千円、新たに実施する「延長保育事業」および「病後児保育事業」に451万3千円を

特集

本別町のお金の使いみち

今年度主な事業あれこれ

☆印は新規事業です

平成29年度の一般会計予算の主な事業について、ソフト事業、ハード事業に分けて説明します。

ソフト事業編 Part 1

活動や仕組み、技術、情報、サービスなど
※ソフト事業目的のため整備されるハード事業を含む

本別町行財政改革の推進

- ☆第5次行財政改革大綱の推進（平成28～32年度）
- ・事務事業の再編、整理、廃止、統合
- ・新しい公共による民間委託等の推進



いきいき商品券発行事業

いきいき商品券10,000円分4,000セット発行にあたり、プレミア率15%相当分を商工会へ補助します。 **事業費 630万円**

☆保育料軽減の拡大

- ・国の基準の保育料と比較し、最大7割の軽減
- ・保育料基準表の階層区分を細分化し、負担の公平性に配慮
- ・引き続き第3子以降の保育料を無償化

事業費 5,438万2,000円

☆子育て支援の充実

新たな子育て支援サービスとして、認定こども園において延長保育事業と病後児保育事業を実施します。 **事業費 451万3,000円**

☆発達支援センターの 障害児通所給付対象事業化

発達支援センター機能を強化し、「児童発達支援事業」「放課後デイサービス事業」「保育所等訪問事業」を実施します。

事業費 1,191万3,000円
(施設改修費を含む)

雇用対策事業の推進

- 季節労働者雇用対策事業
町営住宅等解体業務 402万9,000円
- ワークシェアリング枠（高校生2人）345万6,000円

総事業費 748万5,000円

防災対策の推進

防災訓練（避難所運営・宿泊体験）の実施

22万円



病院事業医療機器購入

オーダリングシステムの更新など
1億464万8,000円

☆地域包括ケアプロジェクト 推進事業

総合的なチーム医療介護体制の確立により、町民の暮らしの安心を構築します。

- ・地域医療・介護人材の確保に向けたネットワーク構築、採用支援等
- ・将来的な介護基盤整備に向けた支援等

384万円

☆介護職員初任者研修

これから介護サービスの仕事に従事しようとする人や介護知識を学びたい人を対象に、基礎的な研修を行い基本知識・技術の習得を支援します。

99万8,000円

☆介護従事者就業支援等補助金

町内の民間介護サービス事業所において新たに就職する介護従事者を対象に、就業支援補助金（就職支度金、就業支援金）、住宅準備支援補助金、養育支援補助金を支給します。

70万円

☆介護福祉士修学資金貸付事業

将来介護福祉士として本別町内の介護保険施設および障がい者福祉施設に勤務を希望する方に対して、就学に必要な学資金を貸し付けます。

- ・貸付金額 月額5万円以内

※介護福祉士の資格取得後、介護福祉士として町内の介護保険施設等に修学資金の貸し付けを受けた期間の2倍に相当する期間在職したときは、全額償還免除とします

120万円

☆不育症治療費 助成事業

妊娠・出産を望む人を支援するため、不育症治療を受けている人の経済的負担の軽減を図ります（助成限度額15万円）。

30万円

インフルエンザ 予防接種助成

対象：幼児、小・中・高校生、高齢者

324万円



☆地域健康づくり活動 の充実

地域における健康づくり活動の推進を図るため、住民懇談会等を開催します。

52万円

地方創生関連事業（広域連携関係事業）

観光振興事業

- 食と観光の商品力・販売力強化
チャレンジ事業 1,350万円
 - ・新たな食資源創出生産プロジェクト
 - ・地域産品販路拡大実証（独自販売ルート構築）
 - ・3町地場産品を活用した新たな食ブランド構築
 - ・圏域周遊モデルルート開発
 - ・拠点施設等魅力創出（道の駅連携）
 - 人材育成事業 70万円
 - ・観光戦略拠点化人材育成
- 総事業費 1,420万円

移住促進事業

- 十勝東北部移住サポート
センター運営 432万8,000円
 - ・移住アドバイザー
 - ・サポートセンター運営
 - 首都圏プロモーション 49万4,000円
 - ・フェア出展等
 - 受入体制整備 376万4,000円
 - ・移住体験用住宅改修
 - ・空き家、求人情報システム運用
- 総事業費 858万6,000円

☆体力増進センターの施設整備・備品購入

- ・70mランニングコースの床を改修します。56万6,000円
 - ・エアロバイク1台を導入します。57万円
- 113万6,000円

☆スポーツイベント 「健康スポーツ週間事業（仮）」 の開催

- 前年までのチャレンジデーに代わるスポーツイベントとして、誰もが気軽に参加しやすい独自のスポーツ週間を設定し、スポーツに触れる機会をより多く提供します。
- 15万7,000円

☆コミュニティ・ スクール導入促進事業

- 昨年の勇足小・中学校に加え、新たに本別中・本別中央小・仙美里小において保護者や地域住民が学校運営に参画する「コミュニティ・スクール」導入に向けた調査・準備を進めます。
- 51万2,000円

☆中学校教育用 パソコン更新

- 中学校教育用（生徒用）のパソコン・タブレット（54台）および周辺機器一式を更新します。
- 1,661万4,000円

ソフト事業編 Part 2

活動や仕組み、技術、情報、サービスなど
※ソフト事業目的のため整備されるハード事業を含む

本別町住まいの環境整備 促進事業

- ・住宅改修等助成交付事業
 - 町内業者を利用した住宅リフォーム費用を一部助成します。
 - （工事費20万円以上は10万円助成、工事費100万円以上は30万円助成）

3,190万円
- ・住宅新築助成事業
 - 町内に一定規模（50㎡・500万円以上）の自宅を新築し居住した際に100万円を助成します。
 - （町外業者を利用した場合は20万円）

800万円
- ☆空き家住宅等除却支援事業
 - 一定の条件を満たす空き家住宅の除去について、費用の一部を助成します。（限度額100万円）

300万円

青年就農給付金

- 青年の就農意欲の喚起と就農後の定着を図るため、就農直後の所得確保を支援します。
- 600万円

町内間育成牛預託事業

- 酪農家の高齢化や規模拡大による労働力が增大するなか、加重対策として育成牛の預託に対し支援します。
- 273万8,000円
（町負担分 91万3,000円）

農業振興人材育成事業

- ・☆農業技術取得等支援事業
 - 新技術、高度情報化等を意欲的に経営に取り入れるための技術取得、研修・視察に対して補助します。

50万円
- ・新規就農者宮農実習等
奨励金事業
 - 本町で就農を目指し、農業研修を実施する新規就農予定者および受け入れ農家に対して補助します。

161万円

☆本別高校の教育を考える会 補助金

- 本別高校の存続および方向性を探るために調査・研究を進め、特色ある学校づくりを支援します。
 - 入学の準備にかかる制服の購入費補助、遠距離通学補助、下宿代補助などを行います。また、平成29年度から新たに陸別線通学バスを運行します。
- 2,433万4,000円

本のまち夢づくり講演会の開催

- 児童文学者の矢崎節氏を招き、言葉の力と考えることの大切さを伝える一般向け講演会と小学生対象の出前授業を実施します。
- 35万6,000円

資料館企画展

- 「七月十五日
本別空襲を伝える」
～戦争にいった馬たち（仮）～
 - 本別町における軍馬に関する新しい資料と、ナガサキピースミュージアムから全国の軍馬慰霊碑の資料を借用して展示します。
- 7万円

☆畜産・酪農収益力強化
整備等特別対策事業
(施設整備事業)補助金

(3月補正予算計上)

TMRセンター(※)建設に係る補助金

3億91万1,000円

※TMRセンターとは…

粗飼料と濃厚飼料を適切に混合して調整した飼料(TMR)を酪農家等の構成員に供給する施設

☆鹿柵の新設、補修事業

昨年の台風被害により倒壊・破損した鹿柵について、新設、補修事業の実施を支援します。

○鳥獣被害防止総合対策事業
負担金補助

1,935万3,000円

(町負担分 685万4,000円)

○撤去、補修単独事業補助

1,116万7,000円

(町負担分 1,034万円)

美蘭別地区営農用水事業

道営美蘭別地区営農用水事業負担金

平成28年度から本工事実施

1億2,765万8,000円

町有林造林事業

新植 14.92ha、下刈 20.55ha、準備地拵 20.77ha

2,116万円

未来につなぐ森づくり推進事業

民有林の植栽 45ha、準備地拵 33ha

1,268万6,000円

民有林造林促進事業

人工造林 3ha、下刈 135ha、除間伐 60ha、
造林未済地対策 48ha

480万6,000円

勇足小学校大規模改修工事

(3月補正予算計上)

老朽化している校舎および体育館の大規模改修を行います。

2億6,000万円

ハード事業編

建物、道路などの事業

☆雪寒車両購入事業

老朽化に伴いモーターグレーダー
1台を更新します。

4,522万7,000円

農業農村整備事業の推進

道営事業

○畑地帯総合整備事業(パワーアップ事業)

- ・勇足地区工事
- ・新規地区計画

1,380万円

(町負担分 210万円)

栄町団地公営住宅建替事業

木造平屋建1棟2戸 周辺外構、駐車場整備2台

5,031万3,000円

(事務費除く)

☆図書館1階トイレの改修

図書館1階トイレを洋式化し、ベビーシート、
ベビーチェア、手すり等を設置し、より利用し
やすくします。

423万4,000円

このほか
道路橋りょう事業として
事業費 4億2,100万円で
9か所を整備します

☆町道南広場1号通り道路改良工事

(平成29~30年度)

総延長=264m 幅員=5.5m 改良=264m

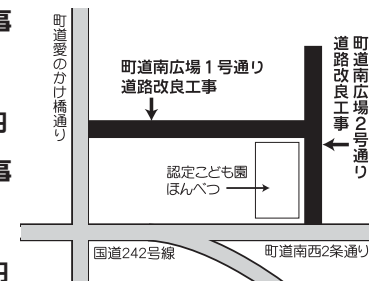
5,700万円

☆町道南広場2号通り道路改良工事

(平成29~30年度)

総延長=213m 幅員=5.5m 改良=213m

4,300万円



ありがとう さようなら

平成29年3月で閉所となる中央保育所と南保育所で修了式および閉所式が3月17日、本別カトリック幼稚園（岩淵つた子園長）で卒園式および閉園式が3月19日、それぞれ開催され、これまで多くの子供たちの成長を見守り続けた施設が幕を閉じました。

通いなれた施設にお別れ

今年度保育所で修了を迎えるのは、南14人、中央16人、17日に行われた南保育所の修了式では、保護者らの拍手に迎えられ、修了児が会場のホールに入場し、所長や保護者の会の代表から、保育所生活の記録やアルバムを受け取りました。続いて修了児一人ひとりが自分の将来の夢を歌ったほか、最後に入所児全員で「思い出のアルバム」を歌うと、保護者や保育士らが涙ながらに子供たちの成長を喜びました。

19日には、本別カトリック幼稚園でも卒園式が行われ、16人が卒園。園児らは、一人ずつ縄跳びや鉄棒での逆上がり、ピアノ演奏など自分の特技を披露した後、岩淵園長から修了証書を受け取り、自分の夢を大きな声で発表しました。式の最後には、卒園児と保護者が互いに感謝の言葉を送り、手をつないで笑顔で会場を後にしました。

各施設、式後には閉所・閉園式が行われ、高橋正夫町長や歴代の所長代表、鉦路カトリック学園の代表らがそれぞれ施設への思いやこれまで運営に携わった多くの保護者へ感謝の思いを語り、子供たちや出席者全員で「ありがとうさようなら」の歌を歌うなど、昭和の時代から続いた保育・教育施設とお別れしました。

各施設のあゆみ

保育所

昭和38年頃、主婦の労働力の需要が増え、保育所開設が切望されてきました。

そこで町は栄橋付近にあった元電源開発会社社務所を借り、昭和39年6月12日に本町で初めて季節保育所を開所。昭和40年11月には、中央保育所の前身となる本別常設保育所が北5丁目に開設され、昭和45年4月には柏木町の本別生活館に南へき地



中央保育所



南保育所



保育所が開設されました。昭和55年には南4丁目に南保育所、新町に西保育所が開設され、北5丁目の中央保育所と合わせて3保育所が整備されました。

中央保育所



涙の「ありがとう さようなら」



将来の夢を歌にのせて

南保育所



保護者に見送られ退場



歴代所長のあいさつ

本別カトリック幼稚園



特技を披露



保護者代表から記念品

子育て支援センターも閉所します

本別カトリック幼稚園
昭和29年10月、カトリック教会付属幼稚園として現在地に開園し、106人の園児でスタート。以来、園庭拡充や遊具、砂場の設置、バス導入など、保護者や信者の協力により教育環境の整備が図られました。昭和55年4月の学校法人化（鉦路カトリック学園）を経て、同60年現園舎に改築。家庭、地域との交流を重んじた幼児教育を推進しました。近年では、子育て支援事業の一環として幼稚園開放日、預かり保育を実施し、地域のニーズに対応してきました。

子育て支援センター（通称はまキッズ）は、平成16年4月に旧西保育所施設を利用して開設されました。子育て家庭の不安解消と子どもの健全育成のため、妊婦から就学前児童を持つ親をサポートする施設として、一時保育、子育て用品の貸し出しやリサイクル、育児相談などを行ってきました。平成29年3月末で同センターも閉所となります。



本別カトリック幼稚園



子育て支援センター



認定こども園に移行
平成29年4月から新たに、幼稚園と保育所、一時保育の機能を併せ持つ「幼保連携型認定こども園ほんべつ」を学校法人鉦路カトリック学園が開設することに伴い、中央保育所、南保育所、本別カトリック幼稚園、子育て支援センターの機能は移行されます。

中央保育所跡地は、4月から改修工事を行った後、これまで本別中央小学校内に設置されていた発達支援センターとして10月から利用される予定です。

南保育所と本別カトリック幼稚園、子育て支援センターの跡地の利用は未定です。

そして新たなスタートへ

受賞おめでとうございます

平成28年度 町教育功績者、少年少女文化・スポーツ奨励賞

平成28年度本別町教育功績者表彰式ならびに少年少女文化・スポーツ奨励賞授賞式が3月11日、中央公民館で執り行われ、中野博文教育長から計31個人、3団体の受賞者へ表彰状や記念品が手渡されました。功績者および奨励賞の受賞者は次の通りです。

教育功績者

PTA役員として、学校教育活動をはじめ、PTA活動推進と本町の教育振興に多大な貢献をされました。

吉川 亜子さん(東町)



少年少女文化奨励賞

【個人】

笠井 陽仁さん(中央小2年)
平成28年度十勝子ども大会
絵画の部……………特選

武田 紗弥さん(中央小4年)
第7回日本ハッコングール
in SAPPORO 札幌地区大会・後期
小学3・4年Aコース……………優秀賞

久常 遥さん(勇足中2年)
北海道建設業協会100周年記念事業
絵画・ポスター作品公募企画展
北海道建設業協会……………入選

山下 三葵乃さん(勇足中2年)
北海道建設業協会100周年記念事業
絵画・ポスター作品公募企画展
北海道建設業協会……………入選

福田 翔子さん(勇足中3年)
北海道建設業協会100周年記念事業
絵画・ポスター作品公募企画展
北海道建設業協会……………会長賞



前川 愛莉さん(本別中3年)
第25回グレンツェンピアノコンクール
北海道地区大会
中学Bコース……………優秀賞

井内 千尋さん(勇足小4年)
第22回どうしん
私とぼくの小学生新聞グランプリ
……………入選



吉田 ああいさん(中央小5年)
平成28年度十勝子ども大会
家庭科作品の部……………特選

少年少女スポーツ奨励賞

【個人】

上田 志保さん(勇足小1年)
第56回全十勝中学校選抜スピードスケート選手権大会
小学1年生 女子総合……………第1位



川崎 綾平さん(中央小1年)
第28回全十勝又スポーツ少年団水泳交歓大会
小学1年男子50m自由形……………第1位
小学1年男子50m背泳ぎ……………第1位

本寺 柚月さん(中央小1年)
第28回全十勝又スポーツ少年団水泳交歓大会
小学1年女子25m背泳ぎ……………第1位

佐川 巧真さん(仙美里小5年)
平成28年度十勝子ども大会
絵画の部……………特選



大泉 瑚凜さん(中央小6年)
第53回北海道管楽器個人コンクール
帯広地区予選
小学校金管の部……………金賞

三品 桜世さん(中央小6年)
第7回北海道ジュニアピアノコンクール
中級C課程……………優秀賞

綾野 沙耶さん(勇足中2年)
北海道建設業協会100周年記念事業
絵画・ポスター作品公募企画展
北海道建設業協会……………銅賞



二瓶 未央菜さん(勇足中2年)
北海道建設業協会100周年記念事業
絵画・ポスター作品公募企画展
北海道建設業協会……………銀賞

林 彩奈さん(勇足中2年)
北海道建設業協会100周年記念事業
絵画・ポスター作品公募企画展
北海道建設業協会……………銀賞

【団体】
本別ジュニアブラス
アンサンブル木管三重奏
(3人)
第48回北海道アンサンブルコンクール
帯広地区予選
小学校の部……………金賞



本別中学校吹奏楽部(22人)
第61回北海道吹奏楽コンクール
帯広地区予選
中学校C編成の部……………金賞



北海道
179市町村
応援大使
HOKKAIDO SUPPORT AMBASSADORS



北海道日本ハムファイターズ

本別町 応援大使 情報



2/15 後援会の中山博志・横田陽子両副会長が2月15日、北海道日本ハムファイターズ沖繩春季キャンプを訪れ、有原航平選手を激励しました。中山副会長は「ファイターズの躍進には、有原選手の活躍が絶対条件です。本別町はずっと応援しています」と声を掛け、本別町特産のキレイマメ詰め合わせやTシャツをプレゼント。有原選手は「よろしくお願ひします」と、町を挙げてのサポートを楽しみにしていました。

2/28 北海道日本ハムファイターズ179市町村応援大使事業説明会が2月28日、町体育館で行われ、約50人が出席しました。高橋正夫町長のあいさつの後、町の担当者が、応援観戦ツアーなど今年1年間の事業内容を説明。続いて、沖繩春季キャンプを激励訪問したファイターズほんべつ後援会の中山副会長が、キャンプ中の選手たちの様子について報告しました。



3/3 札幌市内のホテルで3月3日、18市町村の首長と応援大使が一堂に会し、北海道179市町村応援大使プロジェクトの成功に向けて親交を深めました。高橋町長は、シーズを開始目前の有原航平選手と大累進選手を激励しました。

**北海道シリーズで
選手のヘルメットに
「本別町」が掲出!**
4月29日〜5月28日まで実施される「北海道シリーズ2017 WE LOVE HOKKAIDO」16試合において、ファイターズの選手が限定ユニフォーム、キャップ、ヘルメットに市町村名をつけてプレースト。3月3日の決起集会で市町村代表者による抽選が行われた結果



シリーズ中、札幌ドームで行われる5月3〜4日の千葉ロッテマリーンズ戦と、9〜10日の埼玉西武ライオンズ戦の計4日間、選手のヘルメットに「本別町」名が入ることになりました。



濱名 瑛太さん (中央小1年)
湧別町少年柔道大会
「上野カップ2016」
小学1年生男女混合の部……第3位
第31回全十勝小学生対抗相撲選手権大会
1年生の部……優勝



中野 颯士さん (中央小2年)
第28回全十勝スポーツ少年団水泳交歓大会
小学2年男子50m自由形……第1位
北海道新聞社杯第20回十勝年齢別水泳競技大会
男子8歳以下50m背泳ぎ……第1位



杉本 一輝さん (中央小3年)
第28回全十勝スポーツ少年団水泳交歓大会
小学3年男子25m自由形……第1位
小学4年女子1000m……第4位
第3回全日本ノービススピードスケート競技会



**【団体】
本別水泳スポーツ少年団** (4人)
第28回全十勝スポーツ少年団水泳交歓大会
100mフリーリレー……優勝

山下 仁来さん (中央小1年)
北海道新聞社杯第20回十勝年齢別水泳競技大会
男子8歳以下25m背泳ぎ……第1位
小学1年男子25m自由形……第1位
小学1年男子25m背泳ぎ……第1位

原 綾音さん (中央小2年)
第28回全十勝スポーツ少年団水泳交歓大会
小学2年女子50m自由形……第1位
第19回十勝新春水泳競技大会
女子8歳以下50m背泳ぎ……第1位

井内 千尋さん (勇足小4年)
第28回全十勝スポーツ少年団水泳交歓大会
小学4年女子50m背泳ぎ……第1位
松井 廉さん (本別中2年)
第23回全北海道中学校新人陸上競技大会
男子砲丸投……第8位
第18回北海道ジュニア陸上競技選手権大会
男子B砲丸投……第7位

増田 大輝さん (本別中3年)
北海道中学校体育大会第47回北海道中学校陸上競技会
男子砲丸投……第7位
第18回北海道ジュニア陸上競技選手権大会
男子A砲丸投……第6位

HELLO 本別高等学校

校訓 創意実践

本別高校の行事

平成28年度に行われた「卒業式」・「先輩講話」・「スキー授業」について紹介します。

卒業式 ～61人巣立つ～

3月1日に卒業式を行い、61人が卒業されました。卒業する3年生からは、感謝の気持ちをこめて保護者の皆さんへ合唱する場面もありました。



感謝の合唱



答辞

先輩講話

2月16日、3年生が1・2年生を対象に、進路決定までの体験談について語りました。話の内容を整理して、黒板やプロジェクターを利用する3年生もいて、大変わかりやすく実感のこもった話ばかりでした。身近な先輩の話だけに、聞く側も真剣に聴き入り、これからの進路実現の参考にしていました。



スキー授業

2月7日に1・2年生がぬかびら温泉郷スキー場でスキー授業を行いました。スキーの経験が少なく悪戦苦闘する生徒もいましたが、1日スキーを楽しんできました。



今後の主な行事

- 始業式・入学式……………4月10日
 - 対面式・オリエンテーション…4月11日
 - 高体連……………5月25日～27日
 - 宿泊研修(1学年)
……………5月31日～6月2日
- ※ホームページに様々な情報を掲載しておりますので、ぜひご覧ください

北海道本別高等学校

TEL: 0156-22-2052 / 2068
e-mail: honbetsu-z0@hokkaido-c.ed.jp
http://www.honbetsu.hokkaido-c.ed.jp/

鍋の食材を指名! 215

ほんべつ若者の輪創造プロジェクト実行委員会(太田論志実行委員長)による「鍋KAKOMAナイト」が2月15日、津村会館で開催されました。今年度第4弾となる今回は、冬の風物詩「鍋」を囲んで若者同士の交流を図ろうと企画され、町内外から67人が参加。8チームに分かれた参加者は、用意された鍋のスープ8種、具材40種から好みの食材を指名し合い、指名が重なるとくじを引いて争う白熱ぶりを見せました。完成した鍋は、おいしくいただきながら互いに味見をして盛り上がり、幅広い職種の人が会話を弾ませてにぎわいました。



災害時の物資供給と、高齢者等の見守りを協力 215

本別町とセブン-イレブンジャパンによる「災害時の物資供給等に関する協定」協定書調印式が2月15日、役場で行われました。この協定は、災害時、本別町が要請する食料品、飲料、日用品等の調達について、同社が可能な限り協力することや、同社本別店の営業継続、早期再開、物資の供給・運搬等に関し、緊急車両として本別町がその通行を支援することとしたもの。同社北海道ゾーンマネージャーの内竹善哉氏は、「災害時であっても、おにぎりやパンなど、道内工場とグループ企業のラインを生かして被災地に的確に物資を届けたい」と語りました。このほか、「本別町地域見守り活動に関する協定書」についても同時に協定が結ばれており、同社本別店の店舗内や配達業務時における高齢者等の見守り活動の協力について、合意がされています。これらの両協定を同時に締結するのは、十勝で3番目です。



十勝地方道新会と地域見守り協定を締結 216

北海道新聞の販売所で構成する十勝地方道新会と本別町が2月16日、「地域見守り活動に関する協定」を締結しました。この協定は地域福祉の向上を目的として、新聞配達や料金集金の際に高齢者の異変などを発見した場合、町へ連絡、連携して安否確認や緊急事態の対応などの協力体制を定めたものです。締結式には根布保孝道新本別販売所長と横山聡北海道新聞社帯広支社長らが役場を訪れ、高橋正夫町長と協定書を取り交わしました。高橋町長はあいさつで「住民の安心・安全のため、二重三重に見守り活動ができ、大変心強い」と述べました。



リングプルが車椅子に 215

NPO法人ほんべつつじの園(岡田清治理事長・利用者13人)のリングプル回収事業が700kgに達し、車椅子1台と交換となりました。これは同施設が自治会や社会福祉協議会などの協力を得て回収し、リングプル再生ネットワーク(江別市)に送り続けたことによるもの。同回収事業により、平成14年からこれまでに4台と交換しており、現在、ふれあい交流館やアメニティほんべつなどで使われています。今回は5年ぶり5台目の交換で、町老人ホームへ2月15日に寄贈されました。岡田理事長は「施設で車椅子を活用してほしい」とあいさつしました。



2 18

地域一丸 勇足地区公民館まつり

第33回勇足地区公民館まつり（実行委員会主催）が2月18日、同公民館や勇足生きがい館、勇足ゲートボールハウスで開かれました。メイン会場となる同公民館では、今年も、同地区の小・中学校や勇足元町婦人部など11団体による工作や手芸品等がずらりと展示されたほか、午前・午後の2部に分かれて行われた芸能発表では、勇足地区の幼児や児童・生徒、地域の皆さんなどが遊戯や合唱、カラオケやリコーダー演奏などを披露。かわいらしい踊りや美しいハーモニーがステージいっぱいに繰り広げられると、会場を訪れた約450人の来場者から、大きな拍手が送られました。このほか、子供カルタ大会やゲートボール大会なども各会場で行われ、一日を通して地域一丸となった催しが展開されました。



2 19

シーズン本番に向け、仕上がりを確認

本別陸上クラブ（我妻勇次会長）が主催する第37回本別町室内陸上競技会が2月19日、銀河アリーナで開催されました。管内初戦となる競技会には、トラックとフィールドの全21種目に十勝管内外の小学生から一般まで31団体から260人がエントリー。シーズン本番を控えた選手らは冬場のトレーニングで鍛えた成果を披露しました。



2 23

水泳の全道大会に出場します！

標準記録を突破し、2月26日に札幌市で開かれる第39回全国JOC春季水泳競技大会北海道予選会に出場する本別水泳少年団（及川哲夫監督）の団員など6人が2月23日、教育委員会を訪れ、中野博文教育長に全道大会出場を報告しました。選手らは、出場種目のほか、「泳ぎに集中し、自己ベストタイムを更新できるよう頑張ります」などと力強く抱負を語り、中野教育長は、「体調管理をしっかりして、楽しく泳いでください」と激励しました。



全道大会の結果 各選手、自己ベストを更新するなど、健闘しました。

2 26

舞踊と民謡の祭典

町文化協会と町教育委員会が主催するほんべつ学びの日夢風事業「第40回舞踊と民謡の祭典」が2月26日、中央公民館で開催されました。このイベントは、昨年度まで行われていた「民謡・三味線発表会」と「舞踊祭」を今年度初めて合同で実施されたもの。ステージでは、同協会に加盟する11団体から45人が出演し、日ごろの練習の成果を20演目で披露。中には、尺八や三味線の音色に合わせて踊りを舞うなど、舞踊と民謡の共演も行われ、約230人の来場者から温かい拍手が送られました。



2 28

本別町居住支援協議会

第4回本別町居住支援協議会（鹿島豊隆会長）が2月28日、総合ケアセンターで開催されました。会議では、初めて「本別町空き家活用プロジェクトについて」と題し、株式会社百戦錬磨の事業開発部長長掛掛齊也氏が、全国で展開されている空き家を活用したイベント民泊や農家体験などの事例を紹介。続いて、町担当者が空き家等実態調査の4次・5次調査の内容と、平成29年度の事業計画案について出席した委員等計35人に説明しました。同協議会では平成29年度、本別町版居住支援ガイドブックの作成や、特定空き家の判定基準・対応について、マニュアル整備を行うこと、老朽空き家住宅除却支援事業の創設が検討されており調査の継続実施や、除却助成住宅の対象範囲などについて活発な議論がなされました。



3 2

ポリシーブック活動の成果を報告

J A本別町青年部（若林健一郎長）が主催するポリシーブック活動報告会が3月2日、音更町内の温泉ホテルで行われました。報告会は同青年部の総会に併せて開催。ポリシーブックとは、全国農協青年組織協議会が提唱する行動目標・政策提言集であり、同青年部の4支部がそれぞれテーマを決めて、1年間取り組んできた成果を報告しました。各支部からは農業PRポスターづくりや食育を通して生産した作物の販売体験のほか、農村ホームステイ、ブランド化を目指した新規作物の栽培実証実験について発表。登壇者が苦労したことやこだわった点などを述べると、会場では43人の参加者がお互いの取り組みに刺激を受けた様子で、真剣に耳を傾けました。



国民年金
コ
ー
十
一
追納について

その180

第3号被保険者からの
手続きが遅れた人へ
特定期間・特例
追納について

国民年金の第3号被保険者（専業主婦・主夫）が、配偶者の退職や本人の収入の増加などの理由で扶養から外れた場合は、自ら国民年金保険料を納める第1号被保険者への切り替え手続きが必要です。切りの切り替え手続きが2年以上遅れると、時効により国民年金保険料の「未納期間」が発生してしまいます。

特定期間
手続きが遅れた人が届け出をすれば、「未納期間」を「特定期間」とすることができず、

特定期間は年金を受け取るために必要な受給資格期間に加えることができます。ただし、年金額は増額されません。



特例追納

特定期間とされた期間について、特定保険料を納付（特例追納）することで、年金額を増やせる場合があります。 ※すでに年金を受け取っている人は、特例追納をしても年金額が増えない場合があります。

対象期間

- ・特例追納する時点で60歳未満の人
- ・承認があった月前10年以内の期間
- ・特例追納する時点で60歳以上の人が50歳以上60歳未満の期間

申込期限

平成30年3月31日まで
詳しくはねんきん加入者ダイヤル、または帯広年金事務所へお問い合わせください。
ねんきん加入者ダイヤル
電話 0570100310004

受付時間

月 金曜日 午前8時30分～午後7時
第2土曜日 午前9時～午後5時
※祝日（第2土曜日を除く）、12月29日～1月3日はご利用いただけません
帯広年金事務所
〒080-8558 帯広市西1条南1丁目
電話 0155-16515003

詳しくは
住民課 戸籍年金担当へ
622-8128

日本年金機構のホームページは
http://www.nenkin.go.jp

日本農業担う 59人に卒業証書 3 10

北海道立農業大専科（中島隆宏校長）の平成28年度卒業式が3月10日、同校で執り行われました。今年度の卒業生は、養成過程46人、研修部門8人、研究過程5人の計59人。式では、卒業生一人ひとりが担任教諭から名前を呼ばれたあと、中島校長から卒業証書を受け取りました。中島校長は、「卒業おめでとう。本校卒業の自信と誇りをもって大きくたくましい農業者となってください」とエールを送り、卒業生代表の答辞では、畑作園芸経営学科の白木康博さんが「仲間との思い出を胸に、将来の日本農業を担えるよう責任を持って進んでいきたい」と力強く語りました。最後は教員、保護者、後輩らが見守る中、2年間過ごした学びやを笑顔で後にしました。



厚生労働省へ 派遣研修

企画振興課 門田浩史主任（37）が4月1日から、研修のため厚生労働省へ派遣されます。研修では高齢者医療、介護保険制度などの業務に携わります。研修期間は1年間です。



夢ある6次化を進めて 3 6

平成28年度本別町農業塾が3月6日、道の駅「ステラ★ほんべつ」内の多目的ホールで行われました。この日は、今年度関係機関との共催等含め計7回にわたって行われてきた同塾の最終回。実践発表として、町内の農業者2人が、東京のレストランへ食材を出荷したり、シェフと意見交換を行った経験を語り、「いいものを作ろうと意識が変わった」「農家同士の横のつながりを積極的に活用していきたい」などとそれぞれの思いを述べました。続いて、十勝農業改良普及センター十勝東北部支所の職員2人が、平成28年度の気象災害と小麦の安定生産栽培技術試験の結果を発表。最後は塾長である高橋正夫町長と、本別町農業協同組合の田中敏行代表理事組合長が参加した農業者等22人へ、「作物を作る人、加工する人、売る人が協力し、夢をもって6次化を進めてほしい」とエールを送りました。



社会福祉関係功労者13人を表彰 3 9



社会福祉関係功労者等十勝総合振興局長表彰の表彰状伝達式が3月9日、役場で行われました。この表彰は、民生委員・児童委員として10年以上在職し、その功績が特に顕著な人や、社会福祉施設関係業務従事者として15年以上勤務し、特に優秀な業績がある人に贈られるもの。本別町では今年度、民生委員・児童委員の退任者を含む6人、社会福祉施設関係業務従事者7人が受賞しており、伝達式では、高橋正夫町長から、出席した7人に、表彰状が手渡されました。受賞者は次の通り。

民生委員・児童委員
加藤和子さん、小林信雄さん、前佛藤夫さん、白石道子さん、前田時男さん、今野一泉さん

社会福祉施設関係業務従事者
小川和枝さん、高木裕子さん、高田初枝さん、横田陽子さん、白幡宜子さん、高橋末子さん、原美恵子さん

加藤和子さん、小林信雄さん、前佛藤夫さん、白石道子さん、前田時男さん、今野一泉さん

小川和枝さん、高木裕子さん、高田初枝さん、横田陽子さん、白幡宜子さん、高橋末子さん、原美恵子さん

金賞の音色に大きな拍手 3 4

本別ジュニアプラスアンサンブル（渡邊彩花団長）の第19回定期演奏会が3月4日、本別中央小学校で開かれました。演奏会は2部構成で行われ、小学2～6年生の同団員14人が、アニメソングや歌謡曲のほか、1月に行われた帯広地区個人コンクールや同アンサンブルコンクールにて金賞を受賞した曲など、アンコールを含む13曲を披露。来場者らと合同で演奏する企画もあり、会場は一体感に包まれ、来場した保護者や友人など約120人から大きな拍手が送られました。



親子で絵本づくりに挑戦 3 5

家庭教育支援事業「なかよし」ファミリーリーダーが3月5日、日曜開放された子育て支援センターで行われ、10家族35人が来場しました。このうち0才から小学6年生までの子どもを含む8家族が、親子で絵本づくりに挑戦。最初に町図書館職員が絵本づくりのヒントになるよう読み聞かせを行うと、子供たちはイメージをふくらませて、動物や野菜、乗り物など身近な素材のパーツを使ったり、色紙を自由に切ったりして、思い思いに貼り絵で絵本を作りました。子供たちは夢中になって、独創的・芸術的な作品を完成させ、世界に1冊の絵本を通して親子のふれあいを楽しみました。



町あげて介護 スタッフの確保を 3 3

平成28年度第3回本別町健康長寿のまちづくり会議（井出壬午会長）が3月3日、総合ケアセンターで開かれました。会議では、平成29年度以降に行われる福祉計画の策定概要のほか、介護人材確保対策や地域包括ケア推進策、町老人ホームのサービス基盤整備状況について、町担当者が出席委員21人に説明。老人ホームの基盤整備は、平成29年度の供用開始を目指して進められていましたが、現在、介護スタッフの確保が難しいことから、平成29年度当初予算への計上を見送ることを説明し、委員からは、「本別町の介護現場で働く人が増えるよう、PRの方法を含め、町をあげて取り組んでほしい」など意見が出されました。なお、同老人ホームの整備については、今後も人材確保に全力を尽くすとともに、社会福祉協議会と町が連携しながら、検討を進めていくこととなっています。



高齢者が交流を深める 3 4

本別町老人クラブ連合会（小川健次会長）主催による第31回高齢者文化祭が3月4日、中央公民館で開催されました。この文化祭は、高齢者相互の親睦と文化交流を目的に開かれ、ステージでは町内10老人クラブから、18組60人が出演。日々練習を重ねてきた自慢の歌声や踊りを披露し、約200人の観客は、出演者に温かい拍手を送りました。



みんなの健康

392

皆さんは胸焼けがあると嫌です。薬でもどっぴかしたくなります。でも、そもそもなぜ胸焼けが起るのでしょうか。食べ過ぎた？お腹に力を入れる作業をした？妊娠など特別な場合を除いて、そんなところでしょうか。

胸焼け

原初時代では、食糧確保のために体を動かす必要性がありました。胃の中には食べ物はほとんど無い状態です。しかし、現代人は満腹であっても作業を要求されます。結果、胃からの逆流が増え、胸焼けとなるわけです。別の見方もあります。自然界で、人間は食物連鎖の頂点にいます。全ての食物をコントロールできる人間が「暴飲・暴食」に走ったとすると、神様・仏様はどのようにおぼしめすでしょうか。「バランスが崩れているよ！」と警告されるのではないのでしょうか。この警告は、大きな病気に對する生活習慣病と同じと考えることができます。つまり、一足飛びに心筋梗塞や

脳卒中になる方は少数派です。事前に警告として「生活習慣病」があります。

生活習慣病とは、高血圧、糖尿病、脂質代謝異常、肥満のことです。いずれも生活習慣の乱れから生じるので、この名称が付いています。この生活習慣を正しく身に付けるのは大変です。正しい生活習慣とは、原始時代のリズムのことを指します。朝起きて、夜には眠る。時間になったから食べるのではなく、お腹がすいたで必要な量だけ食べる。食料を得るために、体を動かす。といった具合です。現代社会では、なかなかうまくいかないと思います。ただ、その基準となる所を考えていただきたいのです。



本別町国保病院 医長 草野 学

「仕事で無理だ」とおっしゃる方も多いでしょう。でも、夜に煌々と光を放つテレビや興奮やまなないインターネットなど、修正できる時間はあると思います。大病を患う前に、生活習慣をコントロールし、その進行を食い止めることが大切です。

未来に輝く子どもたち

本別町の未来を担うかわいい星たちです。
お父さん、お母さんのたくさんの愛に囲まれてすくすく元気に育つてね！



柳町 松井里央 (絵里香ママ)



高等学校 大前 暁音 (菜美ママ)



美里別西中 伊藤 董 (夏海ママ)



本別町観光サイトがオープン

町では、本別町の観光および本別公園の魅力と町の特産品、地域資源を総合的かつ戦略的に発信・PRするため、本別町観光サイトを作成し、3月に公開いたしました。

サイト内では、本別町の飲食・宿泊情報をはじめ、道の駅「ステラ★ほんべつ」などの観光スポット、本別町の豆やじゃがいも、小麦などを使った商品の情報のほか、観光PR動画などを掲載しています。どうぞご覧ください。

サイトURL <http://www.town.honbetsu.hokkaido.jp/sightseeing/index.html>

問い合わせ 企画振興課広報電算担当 ☎ 22-8121



ご寄付ありがとうございます 平成29年2月16日から3月15日

次の通りご寄付をいただきました。
紙上を借りて厚くお礼申し上げます。(敬称略)

- ★本別町国民健康保険病院医療施設等整備基金
金100,000円 …… 新町 城市京子
- ★子ども未来事業指定
金30,000円 …… 南4丁目 植瀨 啓一
- ★老人ホーム指定
長いも15kg …… 帯広市 足助 博郁
タオル50枚 …… 栄町 阿保 京子

- 雑巾50枚、タオル11枚
…………… 本別町赤十字奉仕団 委員長 西出 好子
- タオル281枚、バスタオル14枚
…………… J A本別町女性部 部長 細田 友子
- トイレットペーパー96個
…………… J A十勝女性協議会 会長 前塚 節子
- タオル80枚 …… 本別町役場夫人一同 代表 高橋 照子
- ★国民健康保険病院指定
タオル40枚 …… 本別町役場夫人一同 代表 高橋 照子
- ★消防署指定
ビデオカメラ一式 …… 南2丁目 山下 榮 蔵

個性あるふるさとづくり寄付条例による寄付
計 金1,970,000円 …… 165人

銀河ホップアップイン

足寄町

あなたも足寄町に足跡を残してみませんか



足型工房では、足寄町の名前にちなみあなたでも、何度でも足型を取ることが出来ます。採取した足型は、国道沿いやあしよる銀河ホール21前などに敷設されます。旅行の記念や家族への思い出作りに、ぜひご利用ください。

陸別町

日産カップ 第29回オールジャパン パッチ選手権大会in陸別



- 日時 4月16日(日) 午前10時
- 場所 陸別町タウンホール
- 参加資格 20歳以上の男女
- 参加料 1700円
- 申込方法 電話でお申し込みください(先着96人)
- 問い合わせ 陸別町役場産業振興課内 大会事務局 ☎ 27-12141 内線135

本のある暮らし 193

戸籍のまど

お誕生

2月後半から
3月前半の
届出分

西山 柚希^{ゆずき} 希^{のぼる} 公司^{きん} 3/5 南4丁目

ご結婚

(穴戸 謙介^{けんけい} 向陽町
高瀬 旬子^{しゆんこ} 新町

(千葉 友寛^{ともかん} 南2丁目
辰巳 記子^{きこ} 音更町

おくやみ

今野フジノ^{ふじの} さん 97歳 2/17 負籠 2

志谷 豊^{ゆたか} さん 81歳 2/21 南4丁目

高橋 猛^{たけはし} さん 69歳 2/24 清流町

前田 芳雄^{よしお} さん 69歳 2/24 弥生町

平手 禎之^{のぶゆき} さん 51歳 2/26 南2丁目

星 幸伯^{ゆきはく} さん 88歳 2/28 東町

方川 實^{みのり} さん 83歳 3/2 北4丁目

藤沢 常敏^{つねみ} さん 76歳 3/8 南2丁目

綱島 健^{けん} さん 86歳 3/12 上本別

『はらぺこあおむし』を日本語で書いた人

もりひさし

1969年にアメリカで出版され、全世界で累計3,000万部も販売されている絵本『はらぺこあおむし』。

このベストセラーを1976年に日本で紹介したのが、今年100歳を迎える児童文学作家・翻訳家・歌人の「もりひさし」です。

原作者はエリック・カール（原題：THE VERY HUNGRY CATERPILLAR）。1びきのあおむしが食べものさがしの旅に出かけ、やがて成虫になるまでの毎日を、色彩豊かな独特の貼り絵で描いています。

日本語版をつくる時、訳者もりひさしは、「美しくこころよいリズムの日本のことばで伝わるように」工夫しました。そして「あおむしの姿が読者の心を強くあたたくしてくるよう」と願って書いたのです。

4月22日から、こどもの読書週間テーマ展示「もりひさしフェア」を開催します。エリック・カールの翻訳絵本、こぐまちゃんシリーズ絵本、布絵本、ぬいぐるみなどがいっぱい！絵本の世界をゆっくり楽しんでください。

どんな絵本？

絵本の心を
読みとる

図書館では

「こどもの読書週間」の
内容は、4月15日から17日
の情報紙「かけはし」にて
お知らせします。



わたしたちのまち

前月比

人口 **7,388人(-11)**

男 **3,627人(-7)**

女 **3,761人(-4)**

世帯数 **3,703戸(-8)**

〔2月末日住民基本台帳〕

お問い合わせ先

本別町図書館

(愛称：ぶつくる一丸)

本別町北2丁目 ☎・FAX 22-5112